

わがまちの自治会 八清親和会 トピックス

会員の元気を 八清地域の元気に

令和2年 第18号

八清住宅地域や八清親和会を見つめ直すシリーズ“わが街・わが自治会の今・昔”を掲載します。

◆第2回は、全国でも珍しい

“中心にロータリーがあるユニークな住宅街、ロータリーから東西南北360度の放射状に伸びる道路は 8本!”

同じく、全国でも珍しい戦後直後からあるロータリーの、

”信号機のないミニ円形交差点(ラウンドアバウト)!”

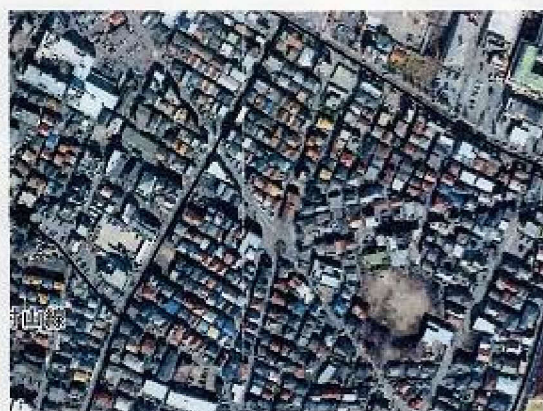
「八清住宅」と「八清」の由来は、第13号(令和2年7月27日発行)で紹介しました通りです。今回は、この戦前にできた八清住宅の、全国でも珍しい2つの特徴をご紹介します。

1. 1つ目の特徴は、まちの中心に直径30mほどのロータリーがありますが、このロータリーを中心に東西南北に8本の道路(公道6本+生活道路2本)が放射状に広がっている全国でも珍しいまち造りです。

これは、八清住宅を請け負った八日市屋清太郎氏が欧州旅行の経験で広げた見聞から着想を得たものと思われる。下はフランス パリの凱旋門付近の凱旋門を中心に12本の放射状に伸びる道路これらを参考にしたものと思われる。

【パリの凱旋門付近】

【現在の八清住宅地域のロータリーと8本の放射状の道路】



戦後は、住宅都市計画で出来た国立市や田園調布市など、駅前のロータリーを中心にした「扇(おうぎ)」形のように半円形に伸びる放射状道路があるまちは、多く見かける。しかし、戦前にできたまちで、ロータリーを中心に360度の放射状に伸びる道路があるまちは、日本では八清住宅地域だけかと思われる。

2. この8本の道路が集まるロータリーには、車の交通整理のための「信号機」はありません。終戦直後(昭和21年ごろ)から、日本では珍しい「ミニ円形交差点(信号機のない交差点)」英語で『RAUND ABOUT (ラウンド アバウト)』が採用されています。

この、ラウンドアバウトとは欧州の『真ん中に「島」のあるドーナツ状の交差点で、車は進入したら決められた方向に周回するルールになっている。ぐるぐる回って、行きたい道が見えてきたらウィンカーを点滅させ離脱する。』方式を取って、車がスムーズに進行する形の交差点を言います。

これが2つ目の特徴です。

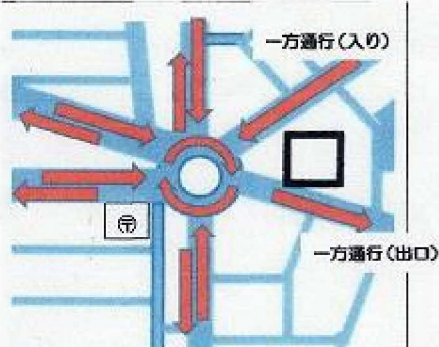
このラウンドアバウト方式の交差点は、多くの自動車を利用する現代社会を見越して、1960年代にイギリス交通研究所で考案された。それ以前から都市開発によって、真ん中に美しい広場などのある円形交差点は、欧州各地にできていたが、交差点に侵入してくる車に優先権を与えることが多かった。そうなると交差点内に車がどんどんあふれ、身動きの取れなくなることも。運転者のいらだちは募るばかりで、渋滞という今も世界中で直面する問題解決のため知恵を絞る必要があった。

新たに考案されたラウンドアバウトでは、交差点内の車が流れていかなければ次の車は進行してはいけない。交差点内が混乱する恐れは減り、すべての車が減速して進入するので、大きな事故になりにくい利点もあり、信号機の設置や運用にかかる費用も抑えることができました。

このイギリス発の知恵は欧州大陸に広がり、2000年以降はアメリカでも急増。中南米やアジアにある欧州諸国の旧植民地でもラウンドアバウトに類似する円形交差点を良く見かけるといふ。

日本でも、東日本大震災の後、信号に頼らない交差点として注目され、2013年、交差点に採用できるように道路交通法が改正され、現在一般的に円形交差点と言われている交差点は、全国に100近くあると言い、駅前や住宅など各所で見る事ができます。

八清ロータリーの円形交差点



円形交差点を示す
旧道路標識

しかし、日本では正確にラウンドアバウトと呼ぶ交差点は、2013年の道路交通法で定義され、法律上明確に区別されています。ラウンドアバウトと呼ばれる交差点は「現代的環状交差点」のことを言い、円形交差点ととても似ていて、一見区別がつきづらく登録して認められないとラウンドアバウト（現代的環状交差点）にはなりません、道路標識も日本独特の標識になります。

東京都に於ける「現代的環状交差点」としては、

- ◇ 多摩市桜ヶ丘4丁目1-1
- ◇ 武蔵村山市大南5丁目1-75

の2箇所のみが導入されています。

したがって、八清ロータリーは登録していませんので、どちらかという「円形交差点」の位置付けになります。



しかし、誇りを持っています、八住宅地域は、戦前に欧州のまちから着想した、まちの中心にロータリーがあり、このロータリーから東西南北360度に放射状の8本の道路広がる、平屋の850戸ほどの超近代的なニュータウンが桑畑に忽然と出現し、戦後には、いち早くまだ日本には採用されていなかった「信号機のない円形交差点（ラウンドアバウト）」を取り入れたまち、と2つの日本のまちには珍しい特徴を持ったまちです。

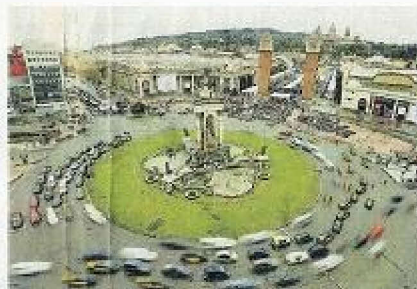


また、会員の皆さん知っていますか！ ラウンドアバウトではイギリス発の知恵を学んだが、イギリスに伝授した知恵もある。ロンドンのオックスフォードサーカスに導入されたスクランブル交差点である。スクランブル交差点では車が全て一時的に止まり、歩行者が交差点内のあらゆる方向に横断でき、通常の交差点に比べ、格段に横断しやすくなる。発祥はアメリカやカナダといわれるが、東京・渋谷の交差点が世界的に有名で、ロンドンも渋谷方式を取り入れたと言われている

古い街並みの多い欧州では今や当たり前で、まちの中心に教会や凱旋門、緑地帯などの島を中心に360度放射線状に道路が広がっているところは、ほとんどこの「信号機のない交差点方式」を採用しているようです。

以上
(吉田記)

- (注) 参考文献・資料) 1. 現八清住宅航空写真(グーグルマップ)
2. 凱旋門付近航空写真: Yahoo デスクトップ写真
3. 円形交差点(ラウンドアバウト) 資料
日経新聞「NIKKEI the STYLE」(2017年5月7日 [B])
記事より引用



スペイン バルセロナの円形交差点

八清親和会は、行事・活動の「会員が必要とする情報・会員が知りたい情報」をスピーディに会員に届けるため、平成29年(2017年)から自治連ホームページの「八清親和会紹介ページ」で『トピックス』として、八清親和会広報＋お知らせ＋報告＋その他等を、毎月15～20件ブログ投稿しています。

自宅のインターネットに接続されたPC、携帯のスマホを持っている方 見てください。

☐ グーグル・ヤフージャパン等の検索エンジンから直接⇒『八清親和会』を検索。

また、八清天親会(神興の会)のホームページもあります。

☐ グーグル・ヤフージャパン等の検索エンジン⇒『八清天親会』を検索。